

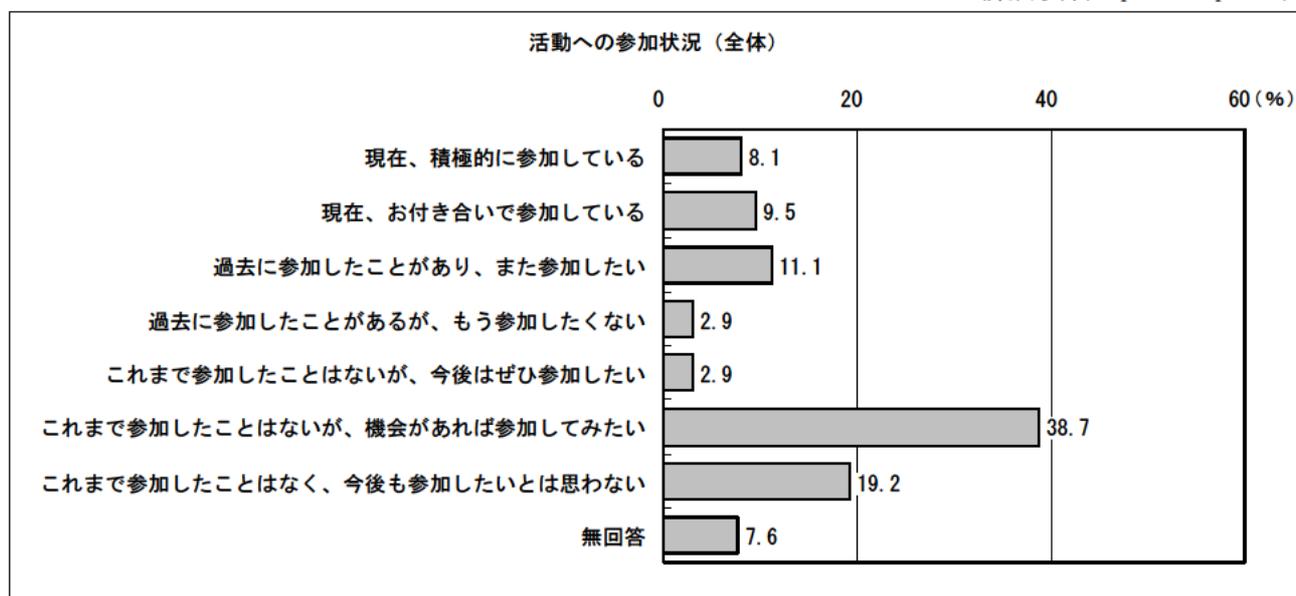
8. 地域の活動についての質問

(1) 活動への参加状況

問3-1 近年、NPO（民間非営利団体）と呼ばれる、営利を目的としないボランティア団体や市民団体の活動が盛んになっていますが、あなたは、NPOやボランティア、地域の活動などに参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。（回答は単一選択式）

○全体

（集計資料 p.152～p.153）

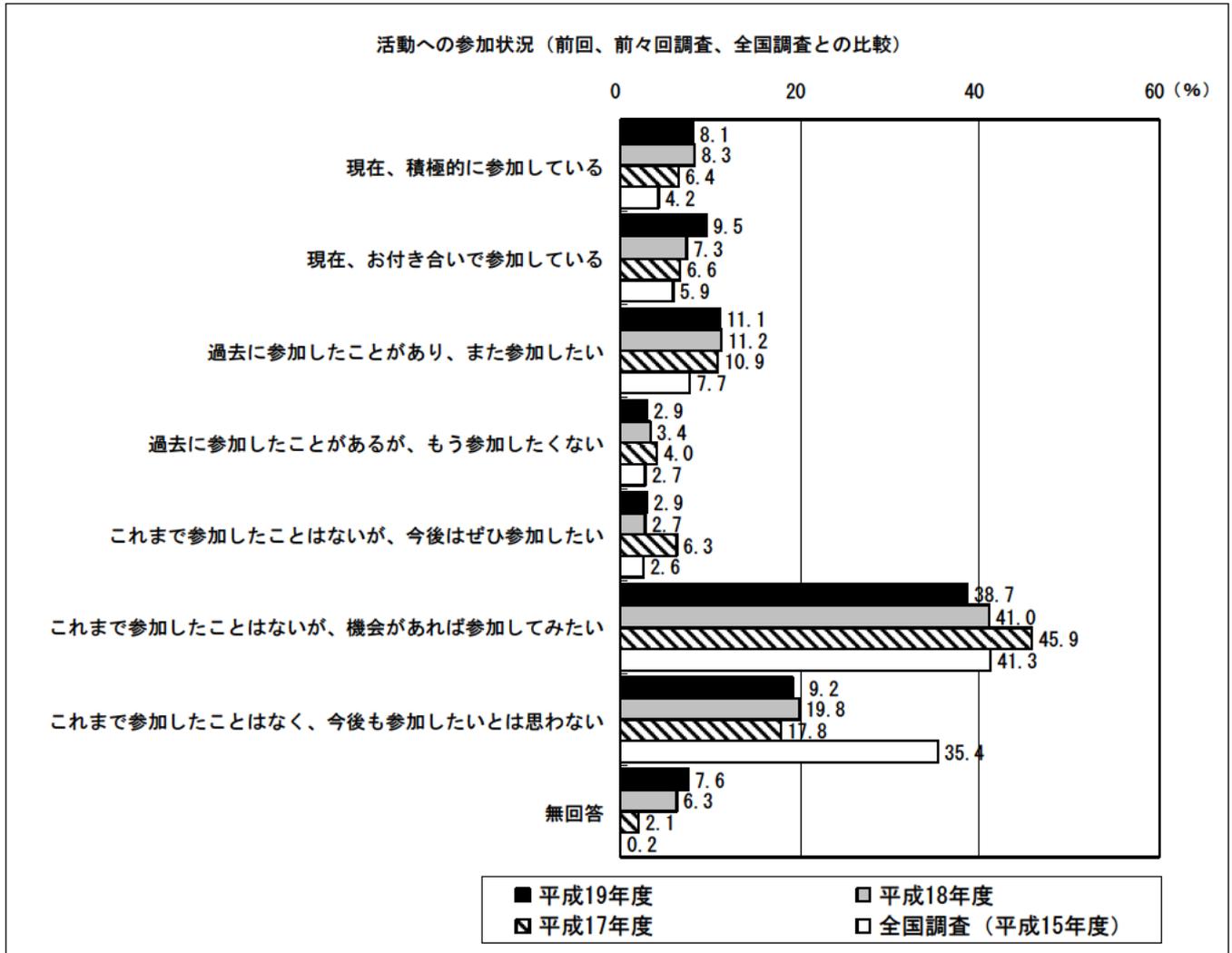


平成19年度

NPOやボランティア、地域の活動への参加状況や今後の意向については、「現在、積極的に参加している」と回答した人の割合は8.1%、「現在、お付き合いで参加している」と回答した人の割合は9.5%となっており、これらを合わせた“現在、地域活動に参加している人”は17.6%にすぎない。

一方、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（38.7%）、「過去に参加したことがあります、また参加したい」（11.1%）、「これまで参加したことはないが、今後はぜひ参加したい」（2.9%）を合わせた“ボランティア活動への参加意欲を持つ人”は約5割（52.7%）を占めている。

○前回、前々回調査及び全国調査との比較



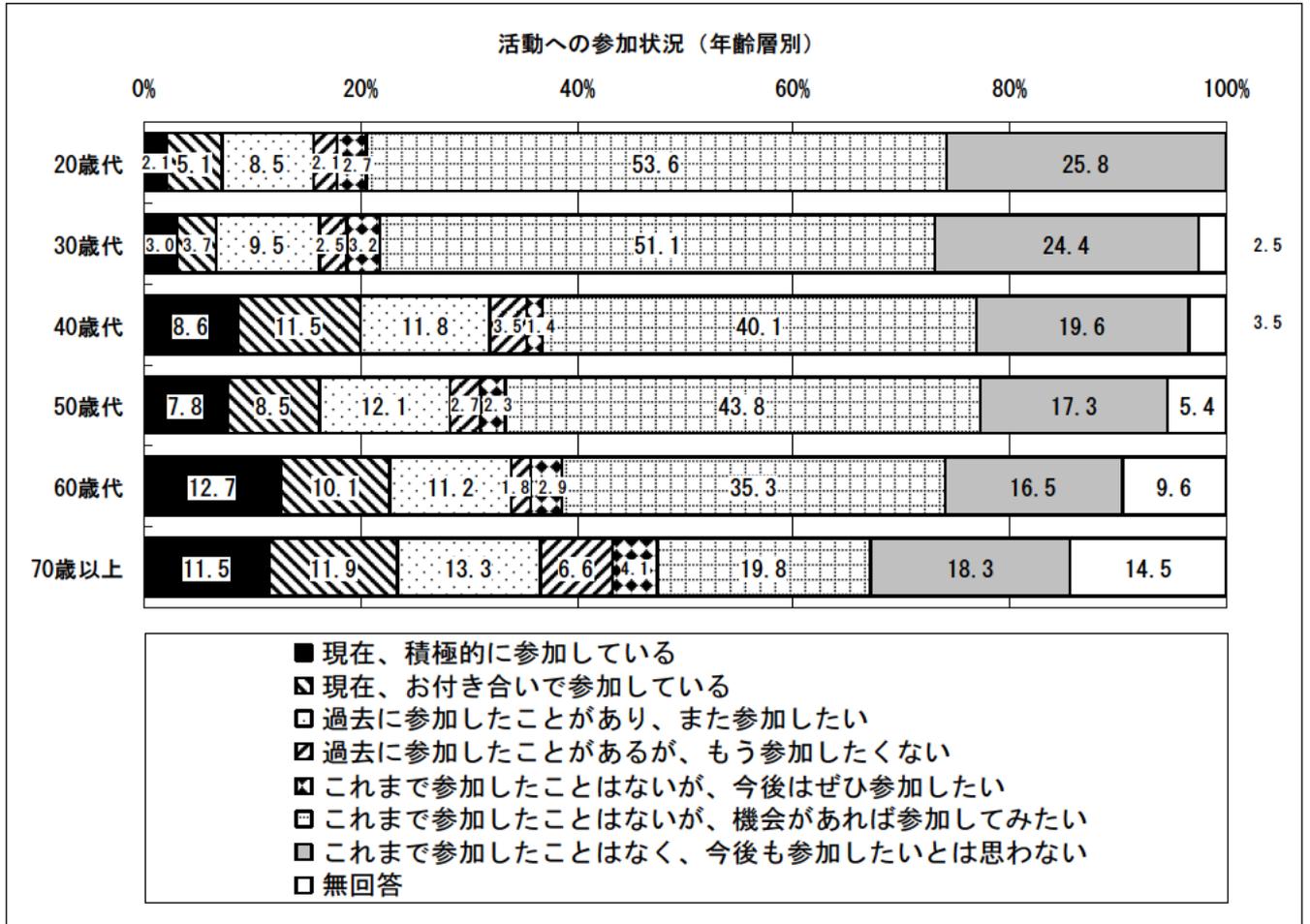
17年度、18年度と比較すると、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人は年々減っており、17年度に比べ7.2ポイント減少している。

しかし、「現在、地域活動に参加している人」は、17年度から19年度にかけて、年々増加傾向にある。（17年度13.0%、18年度15.6%、19年度17.6%）

また、15年度に全国段階で実施された調査（内閣府「平成15年度国民生活選好度調査」）と比較すると「現在、地域活動に参加している人」の割合は、17.6%となっており、全国（10.1%）に比べて7.5ポイント高くなっている。また、「これまで参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と回答した人の割合は、全国では約4割（35.4%）を占めているのに対し、三重県では約2割（19.2%）にとどまっている。

○年齢層別

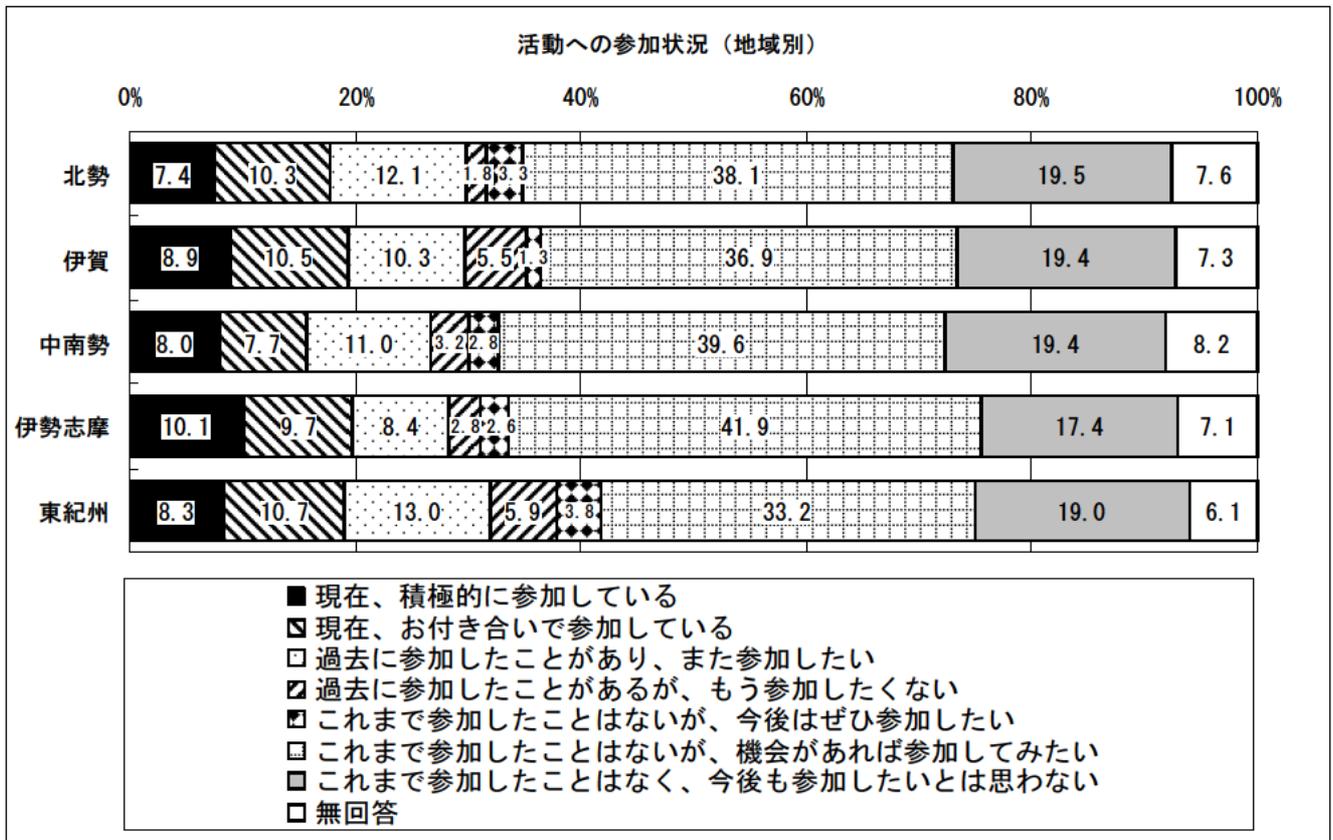
(集計資料 p.152～p.153)



年齢層別でみると、「現在、地域活動に参加している人」の割合は、70歳以上で23.4%と最も高く、次いで60歳代で22.8%となっており、年齢層が高くなるにつれ地域活動へ参加率は高くなる傾向にある。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人は20～30歳代の若年層で高く5割を超えている。

○地域別

(集計資料 p. 152～p. 153)



地域別でみると、「現在、地域活動に参加している人」の割合は、いずれの地域においても2割弱程度となっている。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人は東紀州地域が最も低く、その他の地域では4割前後を占めている。

(2) 参加している（した）活動

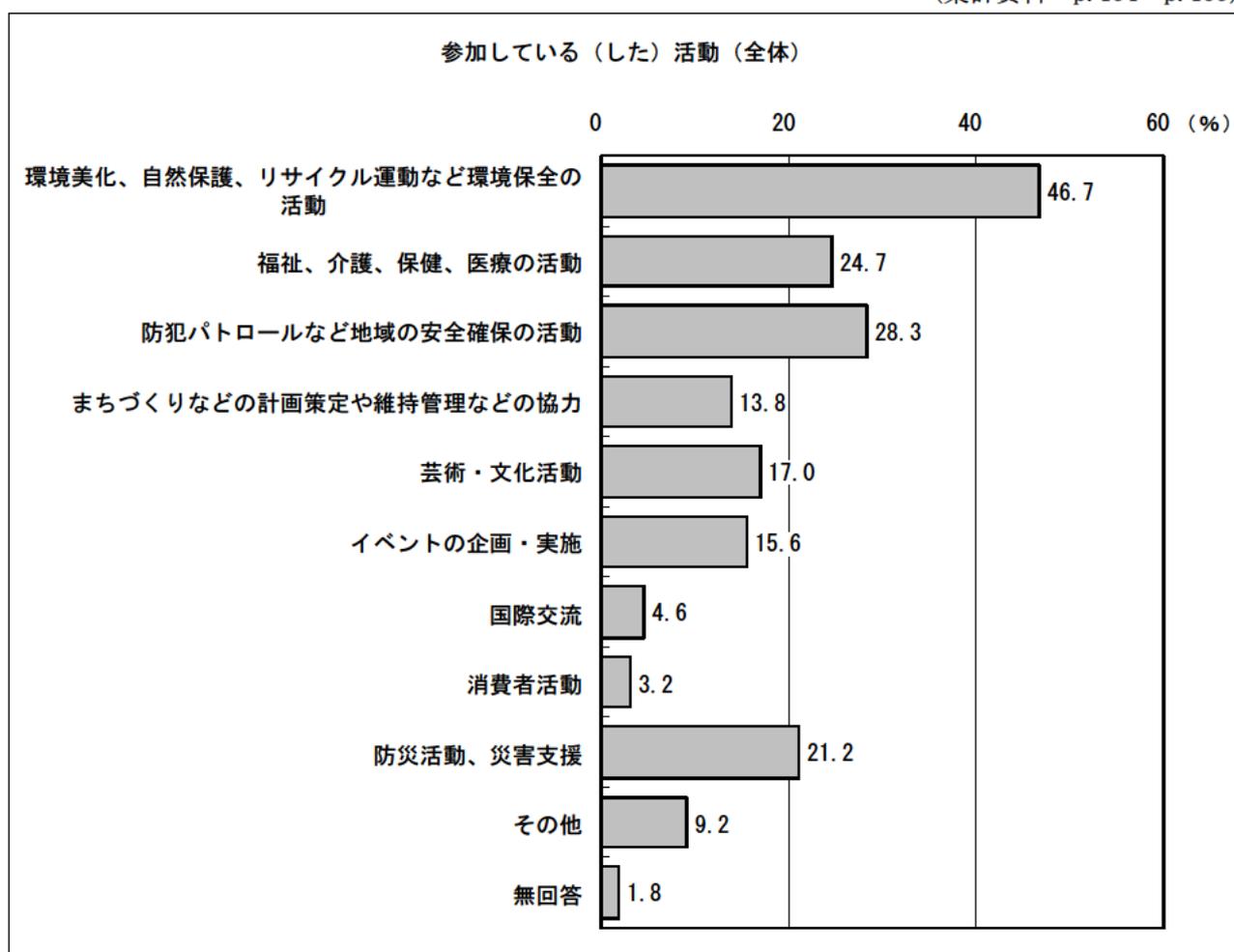
【問3-1で、1～4に○をつけた方だけにおうかがいします】

問3-2 どのような活動に参加されていますか。あるいは、参加されましたか。

(回答は複数選択式)

○全体

(集計資料 p.154～p.155)



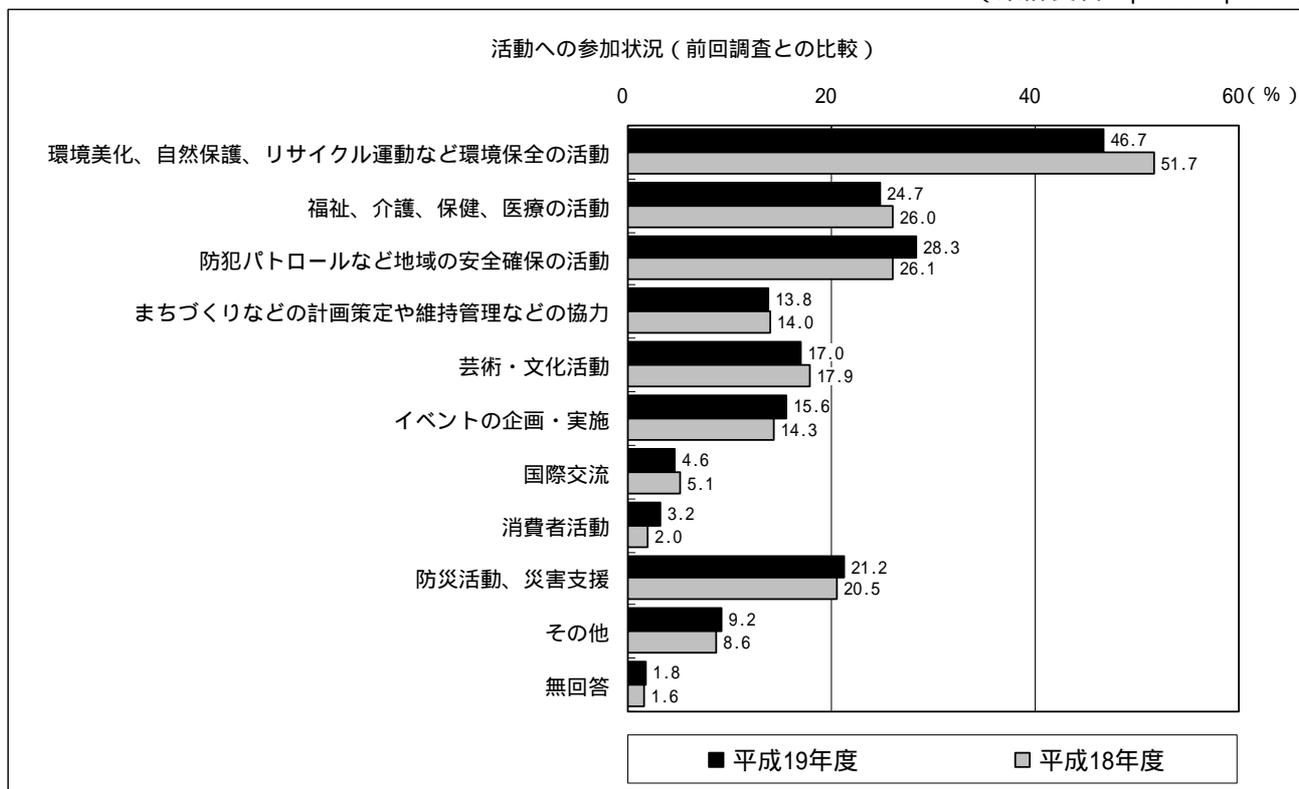
平成19年度

参加している、または参加した活動については、「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」と回答した人の割合が46.7%と最も高く、約5割の人が身近な環境保全の活動に参加している。

これに次ぐ参加している活動は、「防犯パトロールなど地域の安全確保の活動」が28.3%、「福祉、介護、保健、医療の活動」が24.7%、「防災活動、災害支援」が21.2%などとなっている。

前回調査との比較

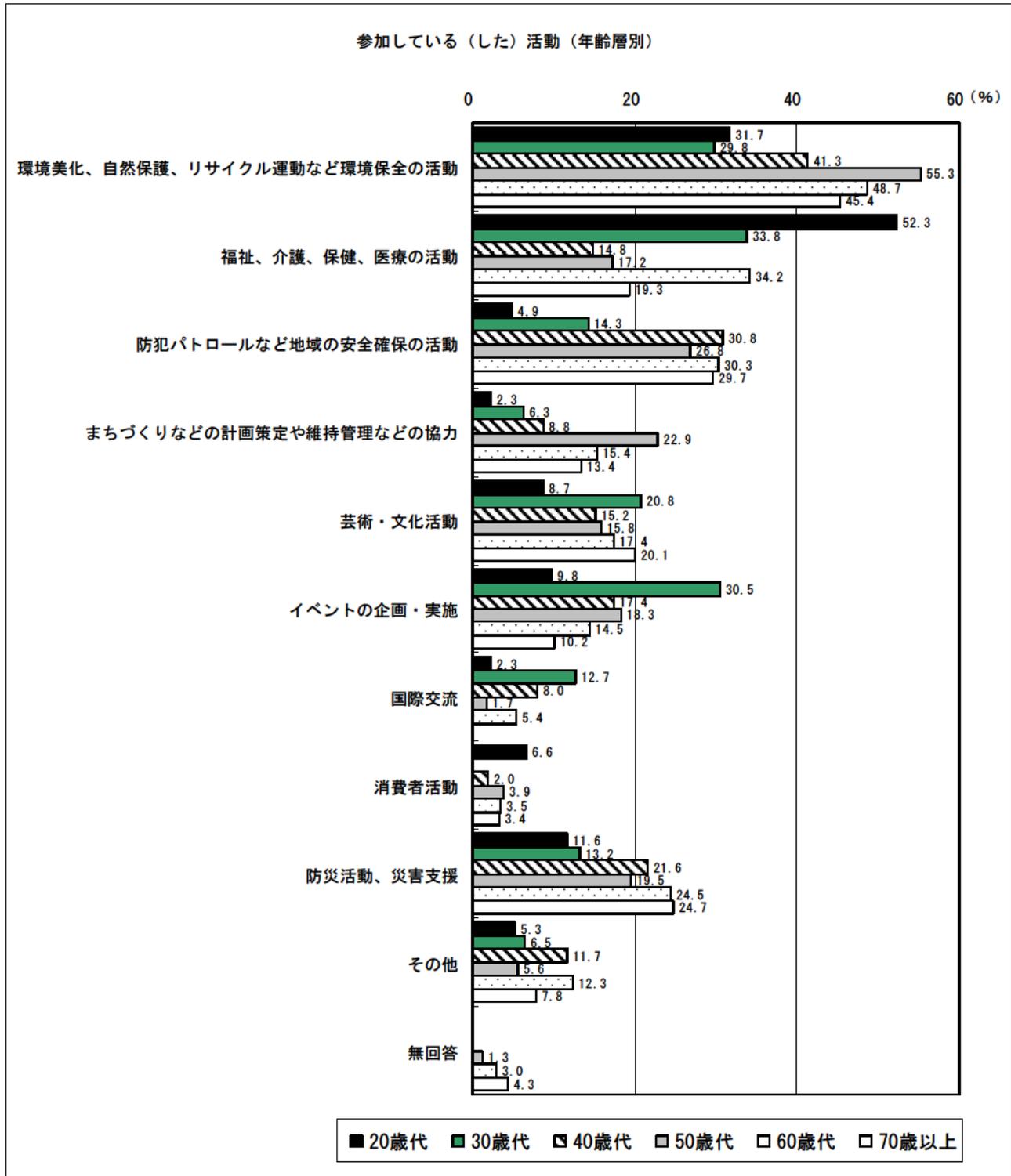
(集計資料 p.154～p.155)



18年度と比較すると、「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」と回答した人の割合は5.0ポイント減少しているものの、他の活動については特に大きな変化はみられない。

○年齢層別

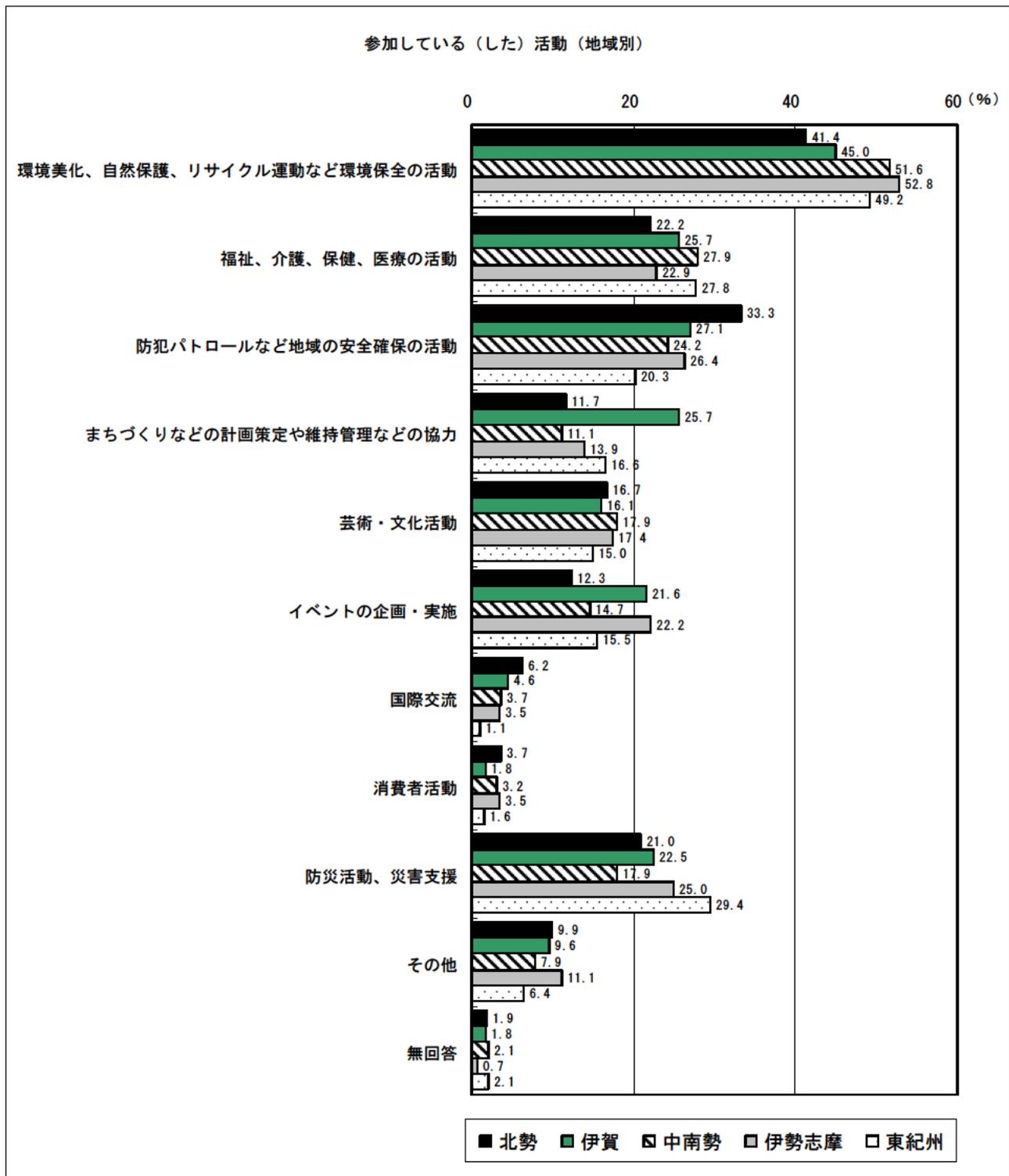
(集計資料 p. 154～p. 155)



年齢層別でみると、「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」「防犯パトロールなど地域の安全確保の活動」「防災活動、災害支援活動」と回答した人の割合は、40歳代以上で高くなっているのに対し、「福祉、介護、保健、医療の活動」は20歳代で、「イベントの企画・実施」は30歳代で高くなっている。

○地域別

(集計資料 p. 154～p. 155)



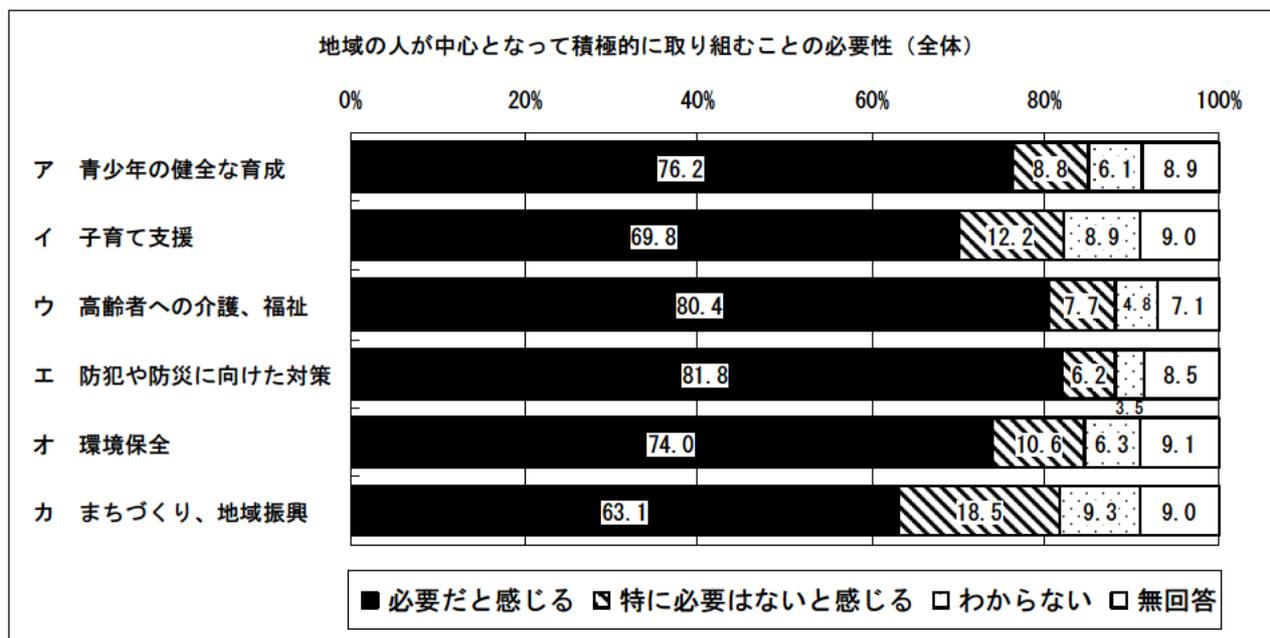
地域別でみると、「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」は、いずれの地域でも最も割合が高く、それぞれの地域で4割を超えている。また、「まちづくりなどの計画策定や維持管理などの協力」と回答した人の割合は、伊賀地域で、「イベントの企画・実施」は伊賀地域や伊勢志摩地域で、「防災活動、災害支援」は東紀州地域で高くなっている。

(3) 地域の人を中心となって積極的に取り組むことの必要性

問3-3 あなたは、次のア～カの項目について、あなたの住んでいる地域の人を中心となって積極的に取り組むことが必要だと感じますか。(回答は各単一選択式)

○全体

(集計資料 p.156～p.161)

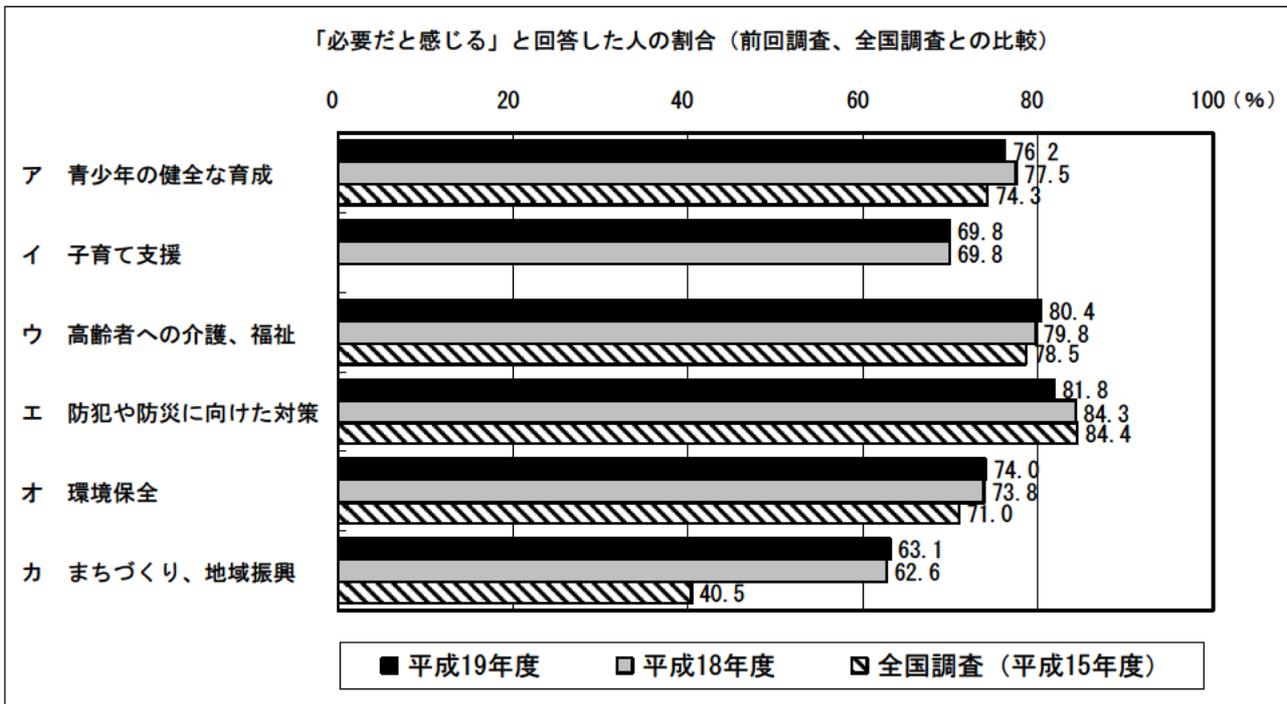


平成19年度

地域の人を中心となって積極的に取り組むことが必要だと思うことについては、「必要だと感じる」と回答した人の割合がいずれの項目でも6割を超えており、中でも「エ 防犯や防災に向けた対策」(81.8%)、「ウ 高齢者への介護、福祉」(80.4%)などでは8割を超えている。

○前回調査及び全国調査との比較

(集計資料 p. 156～p. 161)



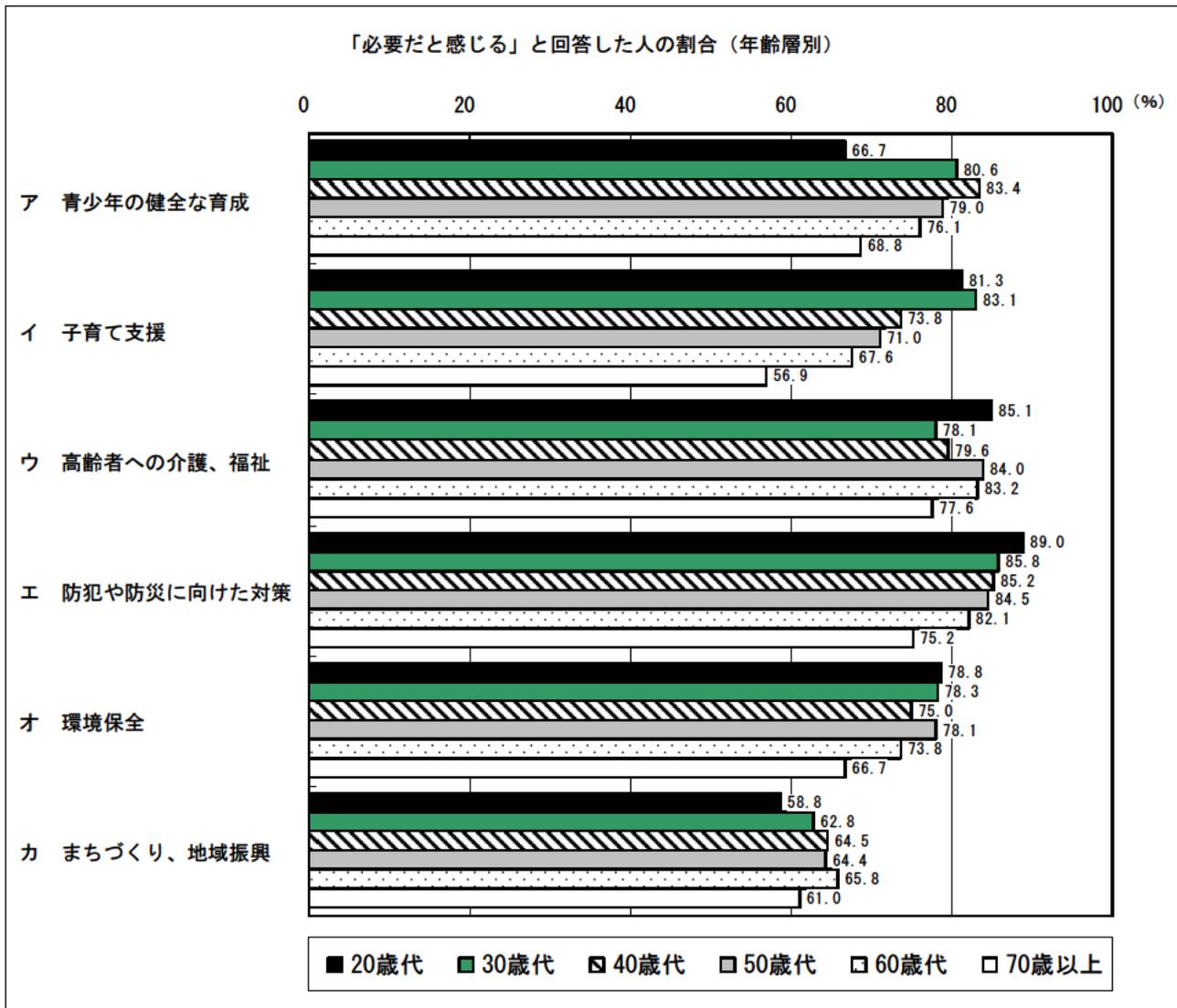
※（ ）は全国調査での表記。また三重県調査の「イ 子育て支援」に該当するものがないので、ここでは省略する。

「必要だと感じる」と回答した人の割合を18年度と比較しても、特に大きな変化はみられない。

また、15年度に全国段階で実施された調査（内閣府「平成15年度国民生活選好度調査」）と比較すると、「必要だと感じる」と回答した人の割合は、「カ まちづくり、地域振興」で全国調査を22.6ポイント上回っている。

○年齢層別

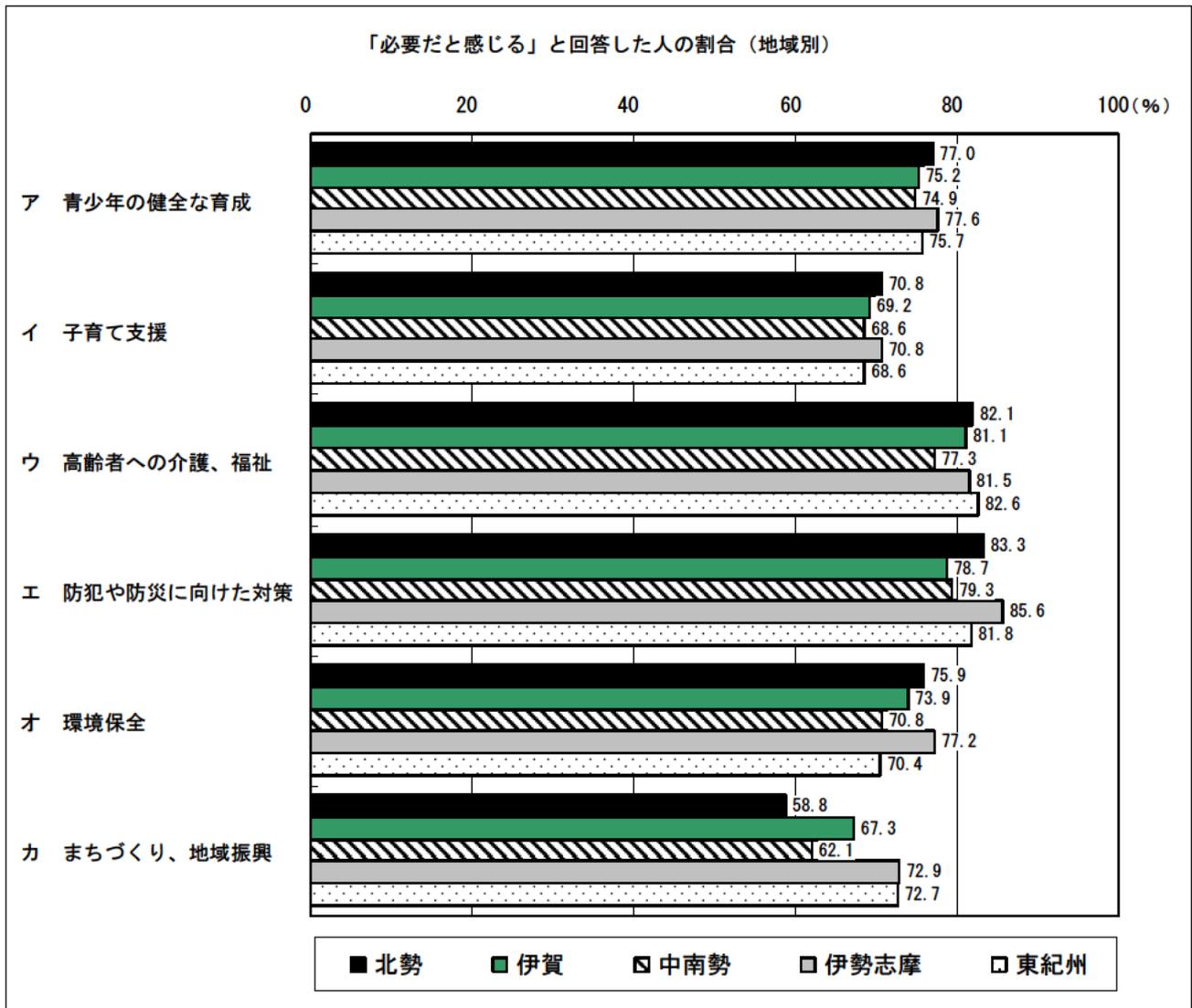
(集計資料 p. 156～p. 161)



「必要だと感じる」と回答した人の割合を年齢層別で見ると、「ア 青少年の健全な育成」は30～60歳代で、「イ 子育て支援」は20～30歳代で、「ウ 高齢者への介護、福祉」は20歳代、50～60歳代で、「オ 環境保全」は20～30歳代、50歳代で高くなっている。また、「エ 防犯や防災に向けた対策」は概ね若い年齢層ほど高くなる傾向にある。一方、「カ まちづくり、地域振興」は60歳代までは概ね年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にある。

○地域別

(集計資料 p. 156～p. 161)



「必要だと感じる」と回答した人の割合を地域別で見ると、「ア 青少年の健全な育成」「イ 子育て支援」では地域における差はあまりみられない。

「ウ 高齢者への介護、福祉」については、中南勢地域がやや低いですが、全ての地域で7割を超えている。

「エ 防犯や防災に向けた対策」「オ 環境保全」は、北勢地域と伊勢志摩地域が、他地域に比べやや高くなっている。

「カ まちづくり、地域振興」は、北勢地域や中南勢地域では6割前後であるのに対し、伊勢志摩地域や東紀州地域では7割を超えている。